

一般社団法人 薬学教育評価機構  
平成 27 年度 定時社員総会 議事録

日時：平成 27 年 6 月 25 日（木）13：00～15：00

場所：帝京平成大学（中野キャンパス） 225 教室

出席者

社員：（出席）75 社員代表者（72 大学+3 団体、うち 19 名代理人）（資料 1）

役員：（理事）井上圭三（監事）小池啓三郎、村瀬清志

来賓：文部科学省高等教育局医学教育課 前島 一実 薬学教育専門官

厚生労働省医薬食品局総務課 田宮 憲一 医薬情報室長

事務局：戸部 徹、小林静子、戸田 潤、母壁美由紀、久松絵美子、長谷章子

配布資料：

資料 1	出席者名簿
資料 2	平成 26 年度事業報告書・決算報告書・監査報告書
資料 3	平成 27 年度事業計画（案）
資料 4	平成 27 年度収支予算（案）
資料 5	6 年制薬学教育評価 第 2 サイクルに向けて
資料 6	理事および監事候補者名簿および役員改選関連資料
資料 7	平成 26 年度 薬学教育プログラム評価結果（総合判定）
資料 8	評価関連委員会 委員一覧（平成 27 年 5 月現在）
資料 9	平成 27 年度評価予定表
資料 10	1 サイクル（7 年間）の評価対象大学

（参考）平成 26 年度「薬学教育（6 年制）評価」結果報告書

## 1. 理事長挨拶

※（ ）に該当資料、説明者名を記す

第三者評価は 13 大学が終了し、現在ブレのない、公正な評価を目指して 11 大学の評価が進行中である。一方、医薬分業を始め、薬剤師の職能が大きく見直されつつある。厚生労働省からは、大学側もその状況に応じ、教育のあるべき姿を考えてほしいと言われている。評価の上でそれをどう反映していくか、しっかり対応しないといけないと考えている。7 年のサイクルで評価が行われることになっているが、平成 32 年度から開始される 2 サイクル目の評価にむけて、改訂コアカリキュラムの実施も含めて、評価に拘わる改革が必要になってきた。薬剤師養成教育の向上のため、皆様のご協力をお願いしたいと挨拶した。

## 2. 来賓挨拶

文部科学省 高等教育局医学教育課 前島 一実 薬学教育専門官：

新制度の薬学部および大学院における研究・教育等の状況に関するフォローアップワーキ

ング・グループにおいて質の高い卒業生を輩出するために提言をしている。各大学において、6年制卒の薬剤師がどのようなことができるのか、6年制教育の主旨はどのようなものであるのか、社会から何が求められているのかを踏まえて、教育の改善に努める必要がある。また、薬学教育評価機構が行っている評価の結果を大学相互間で参考にし、各大学が改善に努めるとともに、評価の結果が薬学教育の質を説明する情報の一つとして社会で活用されるようにアピールする必要があると挨拶した。

厚生労働省 医薬食品局 総務課 田宮 憲一 医薬情報室長：

本年度の薬剤師国家試験の合格率は63%と低調であり、残念な結果であった。今回から大学の出願者数を公表したが、出願者数の縛りこみをして合格率を高く見せている大学があったが、むしろ、入学定員をどう考えるかを真剣に検討すべきではないか。医薬分業率は平成25年度で67%となっているが、医療機関と薬局の距離があると患者が移動する必要がある。また、院内処方として医薬品を医療機関で受けとるよりも、院外処方として薬局で受けとる方が患者の負担額は大きくなるにもかかわらず、負担の増加に見合うサービスの向上や分業の効果などの実感ができないという指摘がある上、コストの見直しや薬剤師の専門性が発揮できていないという問題点が挙げられる。教育の充実が必要ではないかと挨拶した。

### 3. 出席状況及び定足数の確認 (資料1 戸部事務局長)

総数77社員のうち75名(うち19名が代理人)が出席した。本機構定款第14条によると「社員総会は、社員の過半数出席により開会する」とあるので、本総会は成立すると事務局長が報告した。

### 4. 議事録署名人指名 (井上理事長)

議事録署名人として、理事長から以下の2名が指名され、異議なく承認された。

東北大学大学院薬学研究科・薬学部長 山口 雅彦 氏  
大阪薬科大学学長 政田 幹夫 氏

### 5. 事務報告 (戸部事務局長)

本日の配布資料1～10および(参考)平成26年度「薬学教育(6年制)評価」結果報告書の配布の確認が行われた。

### 6. 議 題

<承認事項>

#### 1) 平成26年度事業報告および決算報告について (資料2 小林事務局長補佐)

##### 【平成26年度事業報告の概要】

<本機構の組織体制の構築に関連する取組みについて>

以下の事項について運営委員会で発議され、理事会で協議され、承認された。

- (1) 平成25年度事業報告案および決算報告案
- (2) 平成26年度事業計画案および収支予算案
- (3) 平成27年度役員改選に伴う理事会推薦役員案（役員規則2条2項）

日本薬学会から選出されている柴崎理事は、平成27年3月で会頭職を退任するので、副会頭候補者である大高 章氏（徳島大学）を理事とするとの発言があり、議論の結果、大高氏を理事候補者とし、他の理事及び監事は現役員を再任候補者とすることにした。

(1)、(2)は、平成26年度定時社員総会（平成26年6月26日）で議論し、決定した。

(3)は、平成27年度定時社員総会当日に社員による投票で決定する。

- (4) 事務局の編成

平成27年度以降、評価対象大学数の増加等による事務量の増加に伴い、正規事務職員1名の採用が承認された。

- (5) 認定マーク使用規則

薬学教育評価 適合認定マークの使用に関する規則およびその申請書を本機構ホームページに掲載した。

- (6) 損保ジャパンの傷害保険（団体）に加入し、評価実施員、研究員および事務局員が訪問調査で出張する期間中に傷害が生じた場合に掛かる費用の一部を補償することにした。

- (7) 事務局内の改装について

事務局員の増員（2名）および事務量の増加による事務室の改装を行うことが承認された。

#### <評価事業に関連する取組み>

- (1) 評価関連委員会編成の変更およびアドバイザー制度の導入について

①総合評価評議会は任期満了に伴う評価委員の改選を行った。

退任：首藤、橋本、吉富、吉田、山田各氏

新任：有賀寛芳（北海道大）、佐藤陽治（国立医薬品食品衛生研究所）野口隆志（医薬品医療機器総合科学財団）各氏

②正副評価委員長と事務局の連絡会を設置

③幹事会を廃止し、主査会議を設置

④アドバイザー制度の導入

大学基準協会経由で評価委員をお願いしていた橋本孝志（大学基準協会）と山田勉（立命館大学）の2氏は、本務多忙につき評価委員を辞退したが、アドバイザーとして1、2年評価に関する指導を依頼することにした。

- (2) 平成25年度第三者評価の結果への対応

①福山大学から提出された「総合評価の結果」に付記された但し書きについて総合評価評議会で検討した。

②日本薬科大学から提出された「異議申立て」を検討するために異議審査委員会を3回開催し、その結果を総合評価評議会で諮った。回答書を作成し、大学に送付するとともにHPに掲載した。

- (3) 「異議申立て」の審査を行った結果から、異議申立に係る諸規則（実施要綱、評価事業基本規則、実施規則）の改定を総合評価評議会において行った。
- (4) 平成 26 年度第三者評価について  
平成 26 年度は、岐阜薬科大学、九州保健福祉大学、京都大学、京都薬科大学、就実大学、昭和大学、千葉科学大学、同志社女子大学、東邦大学、徳島文理大学の第三者評価を実施した。
- (5) 評価者研修会を 1 月 10、11 日にクロスウェーブ府中で開催し、47 名が受講した。
- (6) 平成 25 年度に作成した評価管理システムの改造  
委員会の回数を減らし、議論を活発にするために Web 上に会議室を設け、資料等の共有化を図るために昨年度構築したシステムをバージョンアップした。
- (7) 平成 27 年度版「薬学教育評価ハンドブック」を 1000 部作成し、関係各位に送付した。  
評価を受ける大学には 10 部ずつ送付した。
- (8) 平成 25 年度「薬学教育（6 年制）評価」結果報告書を作成し、関係各位に送付した。

#### 【平成 26 年度決算報告書の概略】

報告は、本機構が顧問契約をしている新星パートナーズ会計事務所代表の井河伸朗氏に依頼した。

##### 経常収益

会費収入	61,700,000 円	
	(会費 80 万円×77 正会員+賛助会員 10 万円)	
事業収益	32,400,000	(消費税 8%を含む)
雑収益等	7,765	(定期預金利息分等)
経常収益計	94,107,765	

##### 経常費用

事業費	45,087,932
管理費	24,564,783
経常費用計	69,652,715
当期一般正味財産増減額	24,455,050
一般正味財産期首残高	55,738,110
一般正味財産期末残高	80,193,160 円

平成 26 年度は、24,455,050 円の黒字になった。その理由は、下記の通りである。

- ① 予算案では事務職員 3 名の給与を計上したが、平成 26 年度は 2 名の採用にとどまった。
- ② 予定していた委員会が開催されなかった。
- ③ 評価管理システム上に Web 会議室を設けたためにチーム会議を開催する回数が減った。
- ④ 日程調整が困難で、会議の出席者が諸委員会定数の 0.7 倍であった。

#### 【監査報告】

平成 27 年 5 月 14 日に行った平成 26 年度事業報告及び決算報告に関する監査結果について

て、村瀬清志監事より、平成26年度の本機構の業務実施状況および財政状況は正しく行われたと報告があった。

審議の結果、平成26年度事業報告（案）および決算報告（案）は、異議なく承認された。

2) 平成27年度事業計画（案）および収支予算（案）について（資料3, 4 小林事務局長補佐）

**【平成27年度事業計画（案）の概要】**

＜運営関連の会議計画等＞

(1) 社員総会

定款に準じ、平成27年6月25日（木）に定時社員総会の開催

(2) 理事会

定款に準じ、平成27年5月、12月、平成28年3月の2～3回の開催

(3) 運営委員会関連

運営委員会および、その下部にある二委員会において3回程度の開催

(4) 事務局員の増員

評価作業等の増加に対応して、嘱託職員1名、正規事務職員1名を増員

＜評価事業関連の事業計画＞

(1) 「本評価」の実施

平成27年度評価申請大学11大学を対象に「本評価」を実施する。

近畿大学、昭和薬科大学、摂南大学、崇城大学、千葉大学、東京理科大学、東京薬科大学、東北薬科大学、名古屋市立大学、兵庫医療大学、北陸大学

(2) 評価実施員の養成

評価委員会が主催する評価実施員の養成を目的とする研修会を1回開催し、50名程度の評価実施員候補者を養成する。

(3) 薬学教育評価ハンドブックの改訂

標記ハンドブック平成28年度版を作製し、各大学および関係者へ送付する。

(4) 評価システムソフトの検証

評価システムソフトのバージョンアップを行う。

(5) 2サイクル目の評価に向けて (資料5 中村明弘基準・要綱検討委員会委員長)

基準・要綱検討委員会から2サイクル目の評価に向けて、改訂コアカリを見据えた基準の再構築および将来の薬剤師養成教育の在り方などについて、若手教員等を交えたワークショップを開催することになった。その経緯について、中村委員長から説明があった。平成27年度から検討を始める理由は、2サイクル目の自己点検・評価の開始年度である平成31年度から改訂評価基準に基づき評価を行うことになると、平成29年度には評価基準の改定版を確定する必要がある。そのためには各大学への説明・意見の回収等を入れると2年間の準備期間が必要であると述べた。

(6) 国際対応委員会の開催

評価基準等の英訳等の実施のため2回程度開催する。

【平成27年度収支予算（案）の概略】

収入の部

会費収入 61,700,000円  
(会費80万円×77社員+賛助会費10万円)

評価手数料 35,640,000  
(324万円含8%消費税×11大学)

合計 97,340,000

支出の部

事業費 75,534,226

管理費 26,071,186

支出小計 101,605,412

予備費 2,000,000

支出総額 103,605,412

収支差額 △6,265,412

平成27年度予算案は、約630万円の赤字予算となった。その理由は、①人員の増に伴う人件費、②2サイクル目の評価に向けて基準の検討等を行うワークショップを開催、③評価にかかわる謝金などの増加により、赤字予算案となった。

審議の結果、平成27年度事業計画（案）および収支予算（案）が承認された。

3) 役員の改選について

(資料6 井上理事長)

改選にあたり、役員規則第2条に基づき、候補者の推薦および立候補の申し出を依頼したところ、以下の候補者の申し出があった。

<理事候補者>

社員代表者からの推薦および立候補の申し出 (役員規則第2条第1号)

市川 厚 (武庫川女子大学)、乾 賢一 (京都薬科大学)、井上圭三 (帝京大学)、大高 章 (日本薬学会)、奥 直人 (静岡県立大学)、北田光一 (日本病院薬剤師会)、桐野 豊 (徳島文理大学)、杉浦幸雄 (同志社女子大学)、寺尾允男 (医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団)、寺田 弘 (新潟薬科大学)、豊島 聡 (日本薬剤師研修センター)、樋口 駿 (元福岡大学)、山本信夫 (日本薬剤師会)

理事会からの推薦候補者 (役員規則第2条第2号)

市川 厚 (武庫川女子大学)、乾 賢一 (京都薬科大学)、井上圭三 (帝京大学)、大高 章 (日本薬学会)、奥 直人 (静岡県立大学)、北田光一 (日本病院薬剤師会)、桐野 豊 (徳島文理大学)、杉浦幸雄 (同志社女子大学)、寺尾允男 (医薬品医療機器レギュラトリーサイエンス財団)、豊島 聡 (日本薬剤師研修センター)、西島正弘 (昭和薬科大学)、樋口 駿 (元福岡大学)、

山本信夫（日本薬剤師会）

<監事候補者>

理事会において選出された監事候補者（役員規則第5条）

小池啓三郎（日本私立薬科大学協会）、村瀬清志（元日本薬学会）

13名の理事を役員規則3条1号 大学枠7名、2号 団体枠3名、3号 学識経験者枠3名に基づき選挙を実施した。

投票の結果、以下の候補者が理事および監事として選任された（有効投票総数75票）。

<理事>

大学：市川 厚、乾 賢一、井上圭三、奥 直人、桐野 豊、杉浦幸雄、西島正弘

団体：大高 章、北田光一、山本信夫

有識者：寺尾允男、豊島 聡、樋口 駿

<監事>

小池啓三郎、村瀬清志

なお、理事長は役員規則第4条により、選任された理事の互選によって選任される。選任され次第、メール等で社員に通知する。

<報告事項>

- 4) 平成25年度6年制薬学教育評価の結果に対する「異議申立」について（戸部事務局長）  
日本薬科大学から提出された「異議申立て」の検討のため異議審査委員会を3回（5月20日、6月20日、7月3日）にわたって開催し、総合評価評議会に諮った。  
厳正に審議した結果に基づき、回答書を作成し、日本薬科大学に送付すると共に本機構HPに掲載した。

- 5) 異議申立に係る諸規則（実施要綱、評価事業基本規則、実施規則）の改定について  
（戸部事務局長）

総合評価評議会において、「異議申立」に係る規則の改定を行った。

<主な改定の骨子>

異議申立ができる対象範囲を「不適合」あるいは「評価継続」とし、その変更に限ること。

<現行>

「薬学教育評価 実施要綱」に記載されている異議申立

1.4. 異議申立てについて

本評価、再評価あるいは追評価において、総合判定が「不適合」と判定され公表された大学、本評価において評価の継続が公表された大学には、事実誤認等に対する異議申立ての機会を設けます。

<改定後>

本評価、再評価あるいは追評価において、総合判定が「不適合」、あるいは本評価において「評価継続」とされた大学には、その結果（不適合、評価継続）の変更を求める異議申

立てを行う機会を設けます。

- 6) 平成 25 年度 6 年制薬学教育評価の結果に対する対応報告及び改善報告への回答について  
(戸部事務局長)

総合評価評議会をメールによって開催し、福山大学からの提出された資料に基づき検討した結果、改善されていることが認められたので、福山大学の「I. 総合判定の結果」の但し書きへの対応報告への回答」を福山大学に送付し、本機構のHPに掲載した。

- 7) 平成 26 年度 6 年制薬学教育評価の結果について (資料 7 戸部事務局長)

平成 27 年 3 月 3 日の総合評価評議会において 10 大学の「評価報告書」を決定し、理事長名を付して、各大学に送付すると共に本機構のHPに掲載した。

岐阜薬科大学、九州保健福祉大学、京都大学、京都薬科大学、就実大学、昭和大学、同志社女子大学、東邦大学、徳島文理大学の 6 年制薬学教育プログラムが薬学教育評価機構が定める「評価基準」に適合していると認定された。認定期間は平成 34 年 3 月 31 日までである。千葉科学大学は、総合判定を保留し、評価を継続すると判定された。

- 8) 平成 27 年度評価関連委員会編成について (資料 8 戸部事務局長)

総合評価評議会 16 名 太田 茂議長、鈴木洋史副議長

評価委員会 16 名 平田 收正委員長、小澤孝一郎副委員長、本間 浩副委員長  
栗原順一副委員長

なお、有賀寛芳（北海道大）氏から、委員を辞退するとの申し出があり、総合評価評議会は承認した。

- 9) 平成 27 年度の評価スケジュールについて (資料 9 戸部事務局長)

評価作業は、資料 9 に示すスケジュール通りに進行していると報告した。

- 10) 平成 29 年度評価対象大学の希望申出状況 (資料 10 戸部事務局長)

国公立大学：東京大学、大阪大学、長崎大学

私立大学（東日本）： 岩手医科大学、高崎健康福祉大学、帝京大学、日本大学、北海道薬科大学、明治薬科大学

（西日本）： 愛知学院大学、長崎国際大学、立命館大学、安田女子大学\*

\* 6 月 26 日の全国薬科大学長・薬学部長会議で抽選し、決定した。

- (11) 事務局人事編成について

<平成 27 年度からの事務局の陣容> 括弧内は担当領域を示している。

嘱託職員：戸部 徹事務局長（統括）、小林静子事務局長補佐（運営関連、評価事業）、  
戸田 潤事務局次長（4 月採用 研修会、評価事業）



研究員（非常勤とし、評価事業を担当）：吉田雄三、西郡秀夫、角地敏弘、  
加賀谷けい子

正規事務職員：母壁美由紀（経理全般、運営関連全般、研修会関連）  
久松絵美子（評価事業全般）、長谷 章子（評価事業全般）  
今年度採用予定事務職員

(12) 本機構事務所の改装について

事務局員の増員および事務量の増加により、事務局内が手狭になったので、稼働率の低い会議室を改装し、事務室を拡張した。工事は、4月1日、2日に行った。

以上、議事の経過及び結果を明確にするため、この議事録を作成し、定款第19条第2項により、議長及び議事録署名人は記名押印する。

平成27年7月6日

議 長 一般社団法人薬学教育評価機構  
理事長 井 上 圭 三 (押印済)

議事録署名人 東北大学薬学部  
学部長 山 口 雅 彦 (押印済)

議事録署名人 大阪薬科大学  
学 長 政 田 幹 夫 (押印済)

議事録作成人 一般社団法人薬学教育評価機構  
事務局長 戸 部 徹 (押印済)